

もうやめよう。  
家族の命の大量生産。

ペットショップでの  
生体販売に反対します。

理由はいくつもあります。

店頭を埋めるために過剰に繁殖され、  
必ず売れ残りが発生すること。

利益を得るために、劣悪な環境で

出産を繰り返させる業者が絶えないこと。

飼育放棄につながる衝動買いを誘発すること。

さらには、飼い主の飼育環境や能力の審査もなく、  
虐待目的でも簡単に入手できてしまうこと。

そして、ケージの中で展示され続けること自体も、  
若い動物たちにとって大きなストレスになります。



STAND UP  
FOR ANIMALS Eva

大量生産、大量流通と一体になった  
命を展示販売するシステムを、  
一緒に変えていきましょう。

まずは、ペットショップで犬や猫を  
買わないことから、始めてください。



# NO PETSHOP、 大量生産、生体販売反対

「運命感じちゃった」「一目惚れしちゃった」ペットショップで可愛い仔犬や仔猫を膝の上に乗せたら、誰もが愛おしくそして守ってあげたい気持ちで心がいっぱいになるでしょう。

さながら仔犬・仔猫の保育園のような、明るくて優しさに溢れている落ち着いた空間は、訪れる人を安心させ、幸せをもたらす健全な場所だと思うに違いありません。

一方 2021 年夏には、長野県松本市で至上最悪の動物虐待事件が明らかになりました。約 1,000 頭もの犬を抱えた繁殖業者の動物殺傷・虐待事件です。その業者の山中の施設は、ペットショップの幸せ空間とは雲泥の差、ジメジメした薄暗い地獄絵図さながらの光景でした。上下水道もない強烈な臭気の犬舎に数百頭。大量の被毛が付着した小さなケージに、2 頭ずつ犬が押し込められ、4 段にも積み上げられていることから掃除は行き届かず、排泄物はたまり溢れ、上段から下段のケージにたれ落ちるほど。暑くても寒くても空調管理はなく、真夏の酷暑であっても天井のブルーシートを上げ下げするだけ。みなボロ雑巾のように汚れ、病気でぐったりしている犬も多くいたそうです。

もう一つの施設には交配、出産、育児中の犬が数百頭。しかも出産の兆候があると、獣医師資格を持たない元社長と従業員が、ケージの上に犬の四肢を荷造り用の紐で縛り付け、無麻酔で腹を裂き帝王切開をしていました。裁判では次々と元従業員が赤裸々に語り、その惨状たるや筆舌に尽くしがたいものです。

劣悪繁殖業者や、ペットショップのバックヤードの管理が酷いというのはたびたび聞き及んでいましたが、ここまで命を軽視した行為が日常的に行われていたことに、私たちは驚愕しました。しかも、その繁殖業者の施設で産まれた仔犬が、チェーン展開している有名大手ペットショップホームページの、犬種を検索できるページに掲載されていたことを知り、劣悪管理下で大量生産された仔犬仔猫は、私たちの生活圏に既に入り込んでいること、そしてどこか遠い場所で起きた特別な問題ではないことだと、更に深い衝撃を受けました。

繁殖・販売させる側はよくこう言います。

「動物の質よりも出荷数」

「買う人がいる以上繁殖・販売させる」

そこに動物福祉は微塵もありません。命を扱うプロとしての誇りどころか、痛みや苦しみを訴えることができない金ヅルなる動物をモノとして商売に使うのです。消費者の需要に合わせて次々大量繁殖させ、流通に乗せ、街中で簡単に購入できるこの日本の仕組みがある限りこの残酷で無慈悲な悲劇は終わらないのです。

もうやめよう

この不条理な命の扱いに NO を突きつけ  
負のスパイラルを断ち切ることが  
出来るのは私たち

一般消費者が買わなければ流通量も減ります。売れなければ繁殖させる必要もなく、経済的に多数の親犬を抱え続けることが困難になるでしょう。そもそも金目当てで、良い犬や猫を産ませようと思っていない業者にとって、旨みのない商売と分かれれば撤退するしかないのです。

また、大量生産・大量流通・大量販売がなくなることで、生涯添い遂げる覚悟や責任のない飼い主の衝動買いを防ぐこともできます。コロナ禍では、閉塞的な自粛生活の癒やし欲しさにペットの需要が高まりましたが、日常が戻るとともに世話に時間を割けなくなったり、コロナの影響で生活が困窮し飼育が困難になるなど飼育放棄するケースが多数見られました。

また常軌を逸した動物虐待犯にとって、街中で簡単に購入できるペットショップの動物は恰好の餌食です。最近求刑された飼い猫に対する動物虐待事件も、みなペットショップから次々買い求めていたことが明らかになりました。

動物には、痛みや苦しみ、そして豊かな感情や好奇心があります。どの動物も一つとして同じではなく個性に溢れた唯一無二の存在です。

社会を変え私たちと同じ生きとし生けるものの尊い命を守ることができるのは、この社会で暮らす私たちです。声をあげよう。

**STAND UP FOR ANIMALS**



杉本 彩

公益財団法人・動物環境福祉協会 Eva 代表理事、俳優。

動物にも感情と心があります。私たちと同じように、喜びや悲しみや寂しさを感じます。社会の中で、一番弱い立場の動物の命を尊び、その気持ちを思いやることのできる社会は、人にも優しい社会です。人と動物が共に幸せに生きることが出来る、心豊かで平和な社会の実現を全力で目指します。